

PROGRAM NOTE

2004

近藤譲：夏に

オーケストラのための

In Summer

for Orchestra

《夏に》は、2004年の私の個展で、ポール・ズコフスキー指揮の東京都交響楽団によって、この会場で初演された。それから、もう6年が経つ。その間、2008年には、アイルランドのダブリンでヨーロッパ初演が行われ（ギャヴィン・マロニー指揮、アイルランド・ナショナル・オーケストラ）、そして、来夏には、タングルウッドでのアメリカ初演が予定されている。楽譜は、作曲後すぐにイギリスの UYMP (University of York Music Press) から出版され、又、サントリーホールでの初演時の録音は、2007年に、アメリカの CP² と日本の ALM レコードから発売された私の作品集 CD に収められた。そして、今回の再演。この作品が辿ってきたこうした途は、現代のオーケストラ作品のほとんどが初演はされてもその後ほとんど演奏されずに措かれてしまう状況を考えれば、随分と幸運に恵まれている。

「夏に」というタイトルは、私が偶々、夏にこの曲を書いたのでそう名付けたというに過ぎず、曲の発想の出处や表現内容を示しているわけではない。この音楽は、一つ一つが和音のような厚い響きを持つ「音」の連なりで出来た、一本の「音の線」（それは、テンポやリズムの変化によって、時間的に伸び縮みする）から成る抽象的な音楽である。

この「音の線」は、私が何かを表現するために創ったものではない。私は只、私自身の存在がその中に投げ出されている「世界」から私を訪れる音に耳を敬て、聴こえて来た音を書き記しただけである。それは、私が聴き出したという意味で私のものではあるが、「私」に起源を持つものではなく、譬えれば、私が体験した或る自然現象が——仮令私がそれを他の人とは異なって体験したとしても——私から発するものではないように、「私」の表現ではない。（もしかすると、私の作曲行為は、「世界」を体験する私の体験様態のメタファーなのだと言えるのかもしれない。）したがって、聴き手にとってこの音楽は、言わば、私というフィルターを通して聴く一つの自然現象（例えば、雷や波風、等）のようなものであって、当然それは、聴く人それぞれの異なった意味解釈を受け入れる。

近藤譲

初演：2004年10月(東京 サントリーホール 作曲家の個展「近藤譲」)

初演者：ポール・ズコフスキー(指揮)、東京都交響楽団

委嘱：サントリー音楽財団

出版：University of York Music Press (UK)

録音：ALCD-74

演奏時間：15分